

# 報告書『「経済同友会 2.0」実現への組織運営改革』概要

## I : 経済同友会2.0を実践推進するPT設置の経緯、検討事項

- 2016年11月に創立70周年記念式典にて、将来ビジョンとして、提言「経済同友会2.0 自ら考え、自分の言葉で発信できる『異彩』集団」（以下、「経済同友会2.0」）を発表。
- 本PTは、同提言に基づき、「経済同友会 2.0」の実現に向けた組織運営の改革と、より広く開かれた経済団体への変革の象徴である「テラス」（※）の考えの具現化を検討課題に活動。
- 「経済同友会 2.0」で、我々が貢献すべき分野として提言した ①「経営力」②「社会変革力」③「自己変革力」を高めるために必要な組織運営改革を検討。
- より多様な経営者の活動への参画促進、提言等の具体性、先進性の向上と提言等を実現する戦略性の強化、情報収集力、発信力の改善等について議論。

（※）テラスとは：企業経営者から成る組織の外側にありながら、その組織に繋がる開放的な「テラス」に、経済同友会の活動に興味・関心を持つ人々を積極的に呼び込み、議論し、彼らの知見を提言やその実践に生かしていく。「テラス」を具現化する活動は、こうした議論の場づくり。

## II : 組織運営における変更、新たな取り組みなど

### <改革のポイント>

1. 経済同友会は「経営者」の団体であること、「経営者」の定義を再確認（①）
2. 「テラス」の活動を通じて若手経営者、起業家の活動への参加を促進（①②③）
3. 幹事の定数増員、幹事会における政策提言議論の強化・迅速化（②③）
4. 機動的かつ柔軟な意見発信の強化（②）
5. 外部（第三者）の助言も生かした組織運営（②③）

### 1. 経済同友会は「経営者」の団体であること、「経営者」の定義を再確認

- 入会資格における経営者の定義：一定以上の規模の組織において、その法人の持続可能な経営に責任を持つ立場にある者。具体的には、取締役、執行役、執行役員、常勤監査役等。
- 未上場の新規参加法人に所属する経営者への入会時事前審査：前提要件（少なくとも3年程度は経営者としての経験があり、年間売上高10億円以上 かつ 直近3期が黒字決算であること）は、「目安」とする。
- 入会時の「推薦者」の役割を明確化（被推薦者との関係を明示するなど）。
- 公職への就任や転勤により、やむを得ず退会した会員とのネットワークも維持する。

### 2. テラスの活動を通じて若手経営者、起業家の活動への参加を促進

- 若手経営者や起業家等の中で、経済同友会の理念に共感し、本会の価値向上にむけて共に活動していただける個人に、ノミネート方式（個別に特定する）により、本会への参加を依頼。
- 本取り組みは、会員制度とは別の枠組みとする。ノミネートを受けた経営者は、自身が興味・関心のある分野の活動に集中して参加。「テラス」の活動の一環として行い、将来の会員の発掘にも繋げる。
- 選考委員会を設置し、ノミネート対象となる候補者の推薦を会員に依頼、委員会が対象者を選考。

### 3. 幹事の定数増員、幹事会における政策提言議論の強化・迅速化

- 幹事は、委員会等の提言・意見・報告書の審議等、本会の活動の中枢を担う。こうした幹事の役割の重要性を踏まえ、その定数は、全会員に占める割合を2割程度に維持することを規定。
- 特に議論を要する課題については、論点整理の段階で幹事会に諮る。
- 緊急を要する提言案等については、論点整理の段階で幹事会にて議論を行い、その後の成案は、正副代表幹事会の審議、承認を経て对外発表することを可能にする。

### 4. 機動的かつ柔軟な意見発信の強化

- 政策議論に応じた意見発信を機動的に行うために、緊急性を要する提言等は、代表幹事と委員長の連名で発表。
- 経済同友会の政策提言を体系的に考え、迅速かつ柔軟な意見発信を司る「政策審議会」を新設。
- 各委員会においても、政府の政策議論に合わせて、あるいは先んじて提言の取りまとめが必要な場合には、早期に（例えば12月までに）取りまとめ、1～3月は政党関係者や府省庁への提言説明、「テラス」の活動を通じた世論喚起を行う。

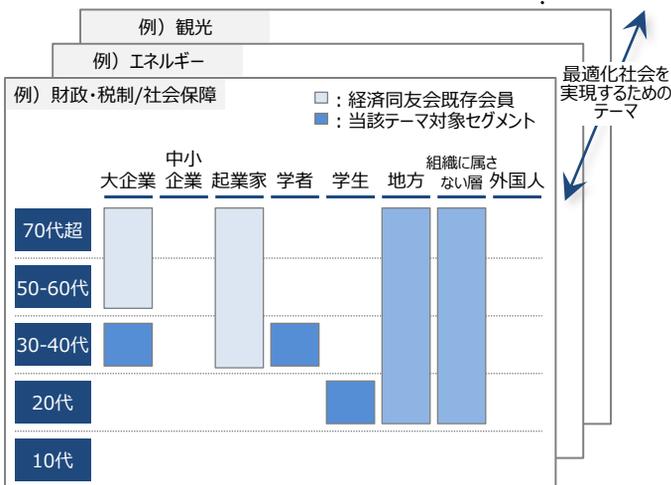
### 5. 外部（第三者）の助言も生かした組織運営

- 第三者からの助言を組織運営に生かしていくために、外部有識者で構成する第三者機関を設置。定款55条に則ってアドバイザー・グループを設置し、経済同友会の活動を熟知した有識者で構成。
- 他の経済団体との比較など多様な観点から、提言の内容や公表のタイミングの改善、及び提言の実践活動の充実等に向けた助言を求める。

## Ⅲ：「テラス」を具現化する活動～次世代等、社会の多様な諸集団との対話

- 目指すべき国のあり方について、次世代や社会経済における様々な集団と共に議論することが必要。
- 2017年度より、これまでの提言実践・交流活動も包含する形で、「テラス」を具現化する取り組みの総称「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」を展開。
- 「テラス」の活動の目的：事実に基づき、多様な集団と社会の課題について議論し、解決の方策を共に考える。この活動を通じて、経済同友会が刺激を受け、学ぶと同時に、同友会の発信力も高める。
- 本PTにて、「テラス」の活動の一環となる、新たな取り組みを試行。活動の対象層やテーマに応じた方法、外部との連携運用の知見を得て、それらを2018年度以降の活動に活かす。

【図1】



【図2】

